



令和4年度地域ケアシステム検討委員会

—「話す」「書く」「見る」「考える」の480分—

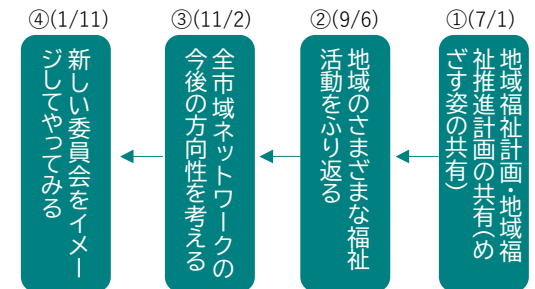
令和4年度の地域ケアシステム検討委員会は、地域福祉計画、地域福祉推進計画でめざす“芦屋の地域福祉”を念頭に置きながら、さまざまな地域福祉活動が「これまでの取り組みによってあげた成果」を会議内で評価した。

また、今後の課題や目標、それらを達成するために必要な体制や会議のあり方を検討することを年間テーマに設定。

1回の会議を120分、合計4回、計480分のワークショップで構成。

設定したテーマについて、ペアワーク(2人組でのセッション)で互いの意見を出し合い、それらを付箋に書き出したり、スマホで入力したりし、それらをホワイトボードやweb上で共有し、その後に全体で意見交換を実施するスタイル。

当初は「会議についていくのに必死」「すごく頭を使って疲れた」といった意見もあったが、「だんだん慣れてきた」「いろいろな意見を出し合えて面白い」といった感想も述べられた。



第1回では、「住民一人ひとりの意識を高め、地域の中でつながりやかかわりを増やすことが大切。」「多様な地域の居場所、さまざまな人同士の交流、役割を超えたつながりや協働が重要」といった「つながり」「役割」という言葉が語られた。

地域の福祉活動をふり返った第2回では、「地域ではこれだけ多くの活動がされているが、知られていないのはもったいない。今後は参加したいと思っている人を繋ぐ仕組みが必要だ」とまとめられた。

第3回では、今後のネットワークのあり方を検討し、「地域生活課題の解決には自由な発想で意見を出し合えることが大切」「ただ、知らない知識を得るだけではなく、自分たちのアイデアを自由に出し合える場(会議)が大切」「新しいアイデアを生み出すためにもさまざまな地域の団体や活動に目を向けていくことが重要」といった意見が述べられた。

第4回では、新スタイルの会議を実施したが、「いろいろなアイデアがでて身近に感じることができた。できる気がする!」「実現したら楽しいだろうな、いいだろうな」といった意見があがった。